

- おもちゃ美術館準備室
- 総務部

- 子育て環境改善部
 - ◆企画制作チーム
 - ◆事業推進チーム

- 子育て支援部
 - ◆高松エリア
 - ・わはは・ひろば高松
 - └地域子育て支援拠点事業
 - └利用者支援事業

 - ・わはは・ひろば香西
 - └地域子育て支援拠点事業

 - ◆坂出エリア
 - ・わはは・ひろば坂出
 - └地域子育て支援拠点事業

 - ・さかいで子育て支援センターまるっ子ひろば
 - └施設運営
 - └地域子育て支援拠点事業
 - └一時預かり事業
 - └利用者支援事業

おもちゃ美術館準備室 令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
おもちゃ美術館準備室	-	3人	寄附2,000万円

【年度の行動目標】

主	スタッフ全員が、同じ目標に向かって進めるよう、体制を整え、おもちゃ美術館のスタートを迎える。	今期の重点行動予定	SDGs関連
重点項目	①組織全体の体制を整える 人材育成	勤務体制、給与体系の整理をする。採用計画を立てて、HPでの人材募集のページ制作、求人説明会の定期開催を通して必要な人材を揃える。東京おもちゃ美術館と連携し、おもちゃ美術館運営マニュアルの作成や、現地研修等を実施する。オープン後1年間の予定やワークショップ計画等を整える	8.
	②経営計画	東京おもちゃ美術館と連携し、収支予測、来館者数予測等含めた、全体の見込みを立てる。	8
	③移転計画	令和4年1月頃を予定に、事務所の移転を進める。各部屋の使用目的を明確にしつつ、必要な什器等の検討を6月までに進める。また、移転に伴う高松ひろばやコーディ事業への影響についても検討しつつ移転スケジュールを立てて、スムーズに移転が進むようにする。	8、12
	④ファンドレイジング・寄付	5月15日のキックオフ MTG より企業寄附受付スタート、8月21日のキックオフMTGから。個人に向けて『LadyFor』のサイトを使ったファンドレイジングをスタートする。補助金申請等も視野に入れながら、総額2,000万円の資金獲得と目標とする。	17
	⑤広報他	おもちゃ美術館オープンの周知、おもちゃ学芸員の養成講座、室内デザイン等、東京おもちゃ美術館の監修のもと進める。	3

【事業チームとしての行動計画】 計画を立てる→スケジュールに落とす→実行する

- ① 東京おもちゃ美術館との定例ミーティングを月1回。担当ミーティングは、毎週火曜日 11:00、IKUNASU との合同ミーティングを毎月第2木曜に開催。ファンドレイジングの会議も定期的に設け、協力者と連携をとりながら進める。
- ② おもちゃ美術館オープンに向けての盛り上がりを共有していくために、キックオフミーティングを5/15(土)・8/21(土)・3/5(土)に開催。オープン直前の3/5については、『おもちゃ学芸員決起集会』も兼ねての開催とする。
- ③ おもちゃ学芸員をオープンまでに150名体制を目指して、第4期 4/15・4/16、第5期 9/25・9/26、第6期 2/26・2/27に開催。(各回定員30名)
- ④ オープンまでのおもちゃ学芸員さんの活躍の機会とオープンまでの期待を高めていく場としての「木育キャラバン」を7/8・9・10、11/18.19.20の2回開催。午前・午後の20組予約制とし、学芸員さんも各回5名以上の参加を目指す。

【計画達成のポイント】

ミーティングの機会を大切に、進捗や課題を明確にし、PDCAを回していく。
IKUNAS チームとの合同ミーティングを毎月第2木曜に実施する。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
総務部	※円	2人	寄附100人 300,000円

【年度の行動目標】

主	おもちゃ美術館事業部スタートに向けての組織基盤を整える	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	①組織基盤を整える	認定NPO取得、グッドガバナンス認証取得の過程で指摘を受けてきた事項を決算書に反映するとともに、今後3年間の経営計画を立てる。年に2回の賞与支給を実現する。	8
	②寄附・クラウドファンディングの実施	通年の寄附の呼びかけと共に、おもちゃ美術館に向けてのクラウドファンディングの実施について、事務的フォローを行う。	17
	③おもちゃ美術館事業部、新規人材採用	求人説明会を定期的実施しつつ、オープン前までにサブディレクター職4名、パート職7～8名を確保し、勤怠管理、シフト管理等の実務体制を整える。	17
	④既存の労務・会計ルールの徹底	ルールブック、各種規程等に基づいた実務を徹底するとともに、現時点の課題を洗い出し改善を図る。	8, 10
	⑤ワークライフバランスの実現	スタッフが心身共に健康で、仕事も家庭も大切にできるよう、有給休暇取得率、検診受診率のUPを目指す。	8

【事業チームとしての行動計画】

- ・7月15日、12月15日の年2回の賞与支給を実現する。
- ・各種会議等、年間計画をカレンダーに落とし(別添)、それに沿った実現を目指す。
- ・おもちゃ美術館の採用については、4月以降9月までは、月1回の求人説明会を実施。10月を目処に必要な人員の確保を目指す。
- ・年に2回はリーダー会の中で、社内ルールについての周知の機会を持つとともに、有給休暇取得状況の確認、検診受診の呼びかけの機会をもつ。
- ・おもちゃ美術館に向けての寄附者、およびわははネットの事業への寄附者、のべ1,100人を目指す。

【計画達成へのポイント】

現状抱えている業務よりも、新規での業務が増え、全体の業務量が増えてくることが予想される。現状のものをより効率的に実施するために、ルールの徹底を図るとともに、どんな際にイレギュラーな事態が起こっているのかを明確にしながらか改善を目指す。

年間実務カレンダーを活用し、業務のマニュアル化を図っていく。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
企画制作	自主事業 17,780,000 円	2 人	45,540 人
	美容-eki 976,000 円		

【年度の行動目標】

2021 年度

主	総合的営業と安定したチーム作り	今期の重点行動予定	SDGs 関連	
重点項目	自主事業	子育て情報誌『おやこ DE わはは』(Vol.95~Vol.100)	・年間計画に沿って制作、営業を滞りなく実施する。 ・顧客リストを活用した営業を行う。 ・情報誌、イベント、SNS、寄附等総合的な営業を行う。 ・2022 年 3 月号で 100 号を迎えるので特別感もてる冊子計画。企業、ユーザーを巻き込んだものにする。	3.4,5,8,1 0.11,12.1 3 14.15,16. 17
		ソーシャルメディア・SNS の活用、情報発信	・企業が発信したい内容を子育て家庭目線で伝え、広告収入に繋げる仕組みづくり。 ・HP 以外の SNS(LINE@、インスタグラム)については解析を行いツールにあった発信の仕方を探る。 ・LINE@ 2,000 名、インスタグラム 1200 名 を目指す。進行確認は毎週ごとの定例ミーティングで確認を行う。 ・LINE@は毎月+35 名、インスタグラムは毎月+45 名を目標とし、ママフェス開催月は毎月目標に+100 とする。	11.12 17
		ママ∞フェスタ 2020	・11/3 開催決定。出展ブース企業の目的達成を目指す。 ・より多くの子育て家庭に周知していく。 ・防災との協働開催により、企業×子育て家庭だけでなく、防災×子育て家庭となるものにする。 ・LINE@、インスタの登録者を増やすための仕組み作り。	4.5, 10.11,12. 17
		防災について	・誌面、SNS を通じて家庭防災を考える機会の提供。 ・ママフェスとの協働開催。認知度アップに繋げる。 ・防災活動を行っている企業・団体との関係性の構築。	4.11 12.17
		総合的営業	・情報誌、たかまつらっこ、イベント、SNS、寄附等をセット営業を実施する。5 月のらっこ配本、情報誌配本にあわせて営業強化月間とする。(らっこ 売上 400 万円。	4.11 12.17
		縁結び・子育て美容-eki ¥967,000	・担当業務の細分化を行い、確実に業務を遂行する。	8.11. 17

【事業チームとしての行動計画】

営業・「情報誌」「たかまつらっこ」「ママフェス」「おもちゃ美術館・寄附」の 4 つを軸としてセットでの営業を行う。

・情報誌は年間を通しての計画の細分化により営業の早期着手につながるものにする。情報誌の営業については 2 号前より開始する。2 週間ごとに営業会議を行い報告、確認の実施をして、対策をたてる。 毎号、新規・過去出稿企業 80 社にアプローチを行う。特集、サブ特集などテーマにあった企業へのアプローチを検討する。

・ママフェスは 7 月末の最終締切りまでに 50 ブースを目標、過去出展企業、新規企業合計で 160 社にアプローチを行う。

情報誌(制作)・100 号に向けてページ数などの検討を上半期内に決定をする。

・ipad 導入による作業の効率化、経費削減を行う。(ペーパーレス化、編集時間等短縮化)

・子育て家庭に確実に届けるため配本先の見直し。幼保全戸配布依頼を続ける。在庫 100 冊以内をめざす。

・記事制作、営業計画は年間、月間、週間と細分化し定期的な報告、確認を実施する。担当者が自身の業務目標をたて、実施できるようにする。業務の進行確認は毎週ごとの定例ミーティングで確認を行う。

・制作、営業業務の基本的な行程を明文化することで作業の効率化を図る。

認知度 UP・SNS ツールの解析、企画会議を毎月行いチーム内で共有する。登録者数を増やすための確認、対策をたてる。

子育て世代の力を活用・子育て家庭の声を聞く機会を定期的にとる。ユーザーを巻き込みながら情報収集や、発信を行うためママモニター制度を取り入れる。制度を軌道にのせるため初期設定(ルール決め、方針)を詳細に早急に確立させる。

【計画達成へのポイント】

・業務ごとの仕組みを確立し、役割明確化したうえで情報を密に共有。上長と密に連携を行い定期的な会議で確認、報告、相談を行う。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
事業推進	20,709,450 円	4 人	92,526 人

【年度の行動目標】 令和3年5月31日現在

主		今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	① 【高松市】 子育てハンドブック「らっこ」 ¥6,197,000	ページ数を116ページに増やし、読み物を増やすと共に、全体ページの2割程度の広告を確保する→実績:6237,000円(400万円強の売り上げを獲得)	3.17
	② 【高松市】子育て支援総合情報発信事業 ¥948,200	6月末までにらっこ冊子の改訂情報を正確にHPと連動させる。	3.17
	③ 【高松市】ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業 ¥1,361,250	ひとり親冊子3,000部を8/1に改訂発行。9月までにひとり親冊子の改訂情報を正確にHPと連動させる。	3.17
	④ 【香川県】 子育て支援人材養成事業 ¥8,738,000	子育て支援員研修、放課後児童支援員資格認定研修ともに、必要な人が研修受講の機会が持てるよう情報を届けていく。コロナ対策に配慮しながら、スムーズな研修実施を目指す。	3.4.17
	⑤ 【香川県】 「イクケン香川」たまご育て事業 ¥3,055,000	事業目的に沿った実施となるよう、働きかける場所の新規開拓や連携を意識していく。	3.4.5.17
	⑥ 【高松市】乳幼児と中学生のふれあい事業 ¥230,000	オンラインでの実施予定。実施校の状況をヒアリングしながら、効果的な実施方法を探っていく。	3.5.17
	⑦ 【香川県】女性リーダー養成事業企画・運営業務 ¥10,600,000	コロナ対策、状況に配慮しながら、スムーズな研修実施を目指す。県の担当者とのコミュニケーションを密に取り、連携して事業実施にあたる。	3.5.8.17
	⑧ 自主事業 仕事と育児の両立支援事業	昨年度の3回連続オンライン講座¥5,500というところから、受講のハードルを下げて、よりたくさんの方に受講の機会を得てもらうために、1回のみ単発講座のプログラム¥2,000とし、3か月に1回の頻度でのオンライン開催とする。夫婦参加のリアルセミナー開催の機会を持つ。	5.8.17

【事業チームとしての行動計画】

各個人が自己の担当事業について、目的をしっかりと把握しつつ事業実施、予算管理、進捗管理、報告書類作成まで一貫して責任を持って実施にあたる。パート勤務で不在日ができる際の業務遂行等について、内外ともに共有するとともに、チーム一括管理で業務の見える化を行う。

育休復帰の両立支援事業については、年間4回のオンラインセミナーの開催(6月、9月、12月、2月)。夫婦で参加をして育休復帰、家事育児分担について考えることのできるセミナー(11月)と、昨年度の受講者であり育休復帰経験者を迎える座談会(10月)を、NPO基金の助成金¥45,000を活用して年1回ずつ開催する。

【計画達成へのポイント】

事業部全体の事業実施カレンダーを3週目のミーティングで翌月分を共有し、広報・集客計画、事業間の連携等を意識したミーティングの実施をする。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
わはは・ひろば高松	8,270,000 円	3 人	4,300 人 12,000 人(関わった人の人数目標)
新型コロナウイルス感染症対策支援事業	300,000 円		

【年度の行動目標】

主	親子の経験と体験を増やす	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	① イベントの充実	妊娠期に参加できるイベントの実施(全3回シリーズ) 親子の体験を増やすイベントの実施(年3回)	3
	②オンラインの活用	SNSを活用し、家庭でできるふれあいあそびなどの発信 イベントをハイブリッドで開催する。	4
	③地域との繋がり	ボランティアスタッフとコミセンでのイベントの実施	11
	④仲間づくり	同じ境遇の人との繋がり作り(多胎児・妊娠期・同年代)の場の提供	3
	⑤スタッフスキルアップ	子どもたちの特性にあった遊びの提供ができるようにスキルアップする。	4

【事業チームとしての行動計画】

- ①体を使ったあそび(ダンス・音遊び・トランポリン)の定期開催(2カ月に1回)
- ①参加者にアンケートをとり満足度 80% 予約達成率 80%を目標にする。
- ①プレママの日のシリーズ開催(①ハンドメイド ②助産師/コーディネーターとの座談会 ③沐浴体験)
- ①予約達成率 80% 継続利用 80%を目標とする。
- ②月2回オンラインで遊びの情報提供(ふれあい遊び・工作・音楽あそび)
- ②オンライン参加者にアンケート調査し、より参加しやすい内容にする。
- ②インスタ動画再生数目標(300回)
- ③多胎児グループメール登録目標(3組)
- ③新規登録数目標(120組)
- ④同じ境遇の人たちが集まる会の実施(転勤族・妊娠期・双子・地元・きょうだい児)
- ④同じ参加者同士がもう一度集まる機会を設ける(参加率 80%目標)
- ④ボランティアスタッフとコミセンでのイベントの定期開催(年3回)
- ⑤発達を促す遊びや、親子のコミュニケーションとなる遊びの提供ができるよう研修に参加する。
- ⑤学んだことでのイベントの実施し、参加者アンケート満足度目標(80%)

【計画達成へのポイント】

親子が経験と体験ができる場となるイベントの実施をするために、外部講師に招いてのイベントの実施
妊娠期からのひろばの継続利用を定着するために、全3回コースのプレママの日の実施
四半期ごとに振り返り、課題と達成状況を確認する。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
子育て支援部(高松コーディネーター事業)	7,505,000 円	3 人	3,000 人
新型コロナウイルス感染症対策支援事業	300,000 円		
2020 年度 ドコモ市民活動団体助成事業	600,000 円	2 人	2020.9～2021.8

【年度の行動目標】

主	子どもの発達を知る	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	①情報提供	HP・SNS で子どもの発達に関する情報を配信	3・4・10
	②学びの機会	子育て座談会の開催・書籍の貸し出し	1・4・10・
	③多機関との連携	親子の選択肢が増えるよう、様々な会議や研修に出席し、子どもの発達に関する相談窓口の担当者と顔の見える関係を構築	3・11

◆目標数値:発達を知る機会が増えたと感じた人を 80%にする

【事業チームとしての行動計画】

- ① ・HP/SNS で子どもの発達に関する情報を月に 1 回テーマを決めて配信。拠点通信と拠点掲示物に同内容を掲載
- ② ・2 か月に 1 回拠点と合同で子育て座談会の実施。(設定予約数に対し 8 割の参加数を目標)
 ・年 3 回未就学児対象の発達座談会を開催。(設定予約数に対し 7 割の参加数を目標)
 ・子どもの発達に関する本の特設コーナーの設置・紹介、貸し出しを行う。2 か月に 1 回内容更新
- ③ ・他機関が行う会議や研修に出席し、コーディネーターと担当者が顔の見える関係となり、必要な時に相談者が直接つながるようにする

【計画達成へのポイント】

◆拠点の実施時期に併せ前期後期でアンケートを取り、目標数値を確認できるようにする。

- ① 月の配信内容を年間計画で立てる。(常田先生の動画・座談会議事録・おもちゃ紹介)
- ② 設定予約数に達するように、関係機関に広報を行う。未就学児を対象とした座談会は、拠点利用者以外にも広報することを考え、市報などにも早めに掲載。
- ③ 会議・研修に出席した際には、関係機関担当者に CN 周知を行い、顔の見える関係を作る。

※2021 年度ドコモ市民活動団体助成事業申請中

(すべてのひとり親家庭を孤立させないための連携と支援者育成)

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
わはは・ひろば香西 地域子育て支援拠点事業	8,270,000 円	4 人	4,320 人 ②12500 人
新型コロナウイルス感染症対策支援事業	300,000 円		

【年度の行動目標】

主	たくさんの人と関わろう！	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点 項目	①新規獲得に向けた広報	・ひろば紹介動画の作成(年6回) ・通信に手作りおもちゃ情報の提供(月1回)	3
	②子育て世代に合わせた情報発信	・SNSを利用した育児アンケート(月1回) ・オンラインを利用した情報提供	3
	③大人も子どもも楽しめるイベント開催	・体験イベントの開催(年6回) ・同年齢児親子が交流できるイベントの開催 ・ボランティア主催のイベント開催(月1回)	4、12
	④スタッフが地域に出てひろばの認知を広げる	・ひろば外イベントの開催 ・地域イベントの訪問 ・地域向け通信の配布(年2回)	11
	⑤スタッフのスキルアップ	ひろば内勉強会の開催(月1回)	8

【事業チームとしての行動計画】

・利用者目標人数を定員の75%(4320人)、関わった人目標人数を12500人とする

①ひろば紹介動画(インタビュー動画)をインスタにアップ(年6回)

①毎月の通信に手作りおもちゃの作り方を掲載、来館や郵送にて工作キットを配布

①新規登録組数90組を目指す

②インスタアンケートにて実施、アンケートに対する利用者さん意見を収集し結果を配信・掲示(月1回)

②ZOOMを使ったオンラインひろばでふれあいあそび等の情報提供を行う(月1回)

②半期に一度、ひろばで知りたい情報が得られたかをアンケート調査し満足度85%以上を目指す

③親子で参加できる季節の体験イベントを開催

(案:トマト栽培、サクランボ狩り、運動会、どんぐり拾い、いもほり、シャボン玉あそび/年6回)

③0歳児、1歳児、2・3歳児向けイベントを交流できる内容で開催(月1回)

③アンケートにてイベント満足度90%以上、継続率90%以上を目指す

④ボランティアと一緒にひろばイベントを開催する(月1回)

④地域イベントに合わせ、ひろばを知ってもらうための通信を作成しご近所などに配布する(100件/年2回)

④産婦人科の母親学級、4か月児相談に月1回訪問し、ひろばの周知に努める

⑤ひろば内勉強会を行い、共通認識で業務にあたるができるようにする(月1回)

【計画達成へのポイント】

・様々なイベントでオンラインを活用できるよう、ひろばスタッフ内で学び合い、練習していく。

・イベントの参加者情報をアンケート等にて収集し、後追いやデータ分析ができるようにしておく。

・毎月初めのミーティングを活用し目標と実績を確認する。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
わはは・ひろば坂出	8,270,000 円	3 人	① 4000 人 ② 10,000 人
駐車券補助	150,000 円		
新型コロナウイルス感染症対策事業費補助金	300,000 円		

【年度の行動目標】

主	わはは・ひろば坂出をもっと 知ってもらおう!!	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点 項目	① まだ知らない人にひろばの 情報を届ける	・健診チラシにカードプレゼントチラシを加える。 ・産婦人科用チラシを通信に追加。 ・インスタの活用。 ・駐車場補助の周知。	3・11
	② 初めての人が利用しやすい イベントづくり	・転勤ママ、同級生など、仲間づくりのできる会の開催。 ・デビューデーで「ようこそひろばへカード」作成。 ・助産師さんの協力を得て、プレママ向けイベント実施。	3・4・11
	③ スタッフの連携を図る	・週 2 回のミーティングや振り返りを通して、共通理解や業務 進捗状況の共有を図る。	3
	④ スタッフが地域を知り、地域 に開かれたひろばを目指す	・地域の行事に参加したり、季節の行事に合わせて地域の方 に来ていただいたりする機会を増やす。 ・親子とともに散歩に出かける。	3・4・5・8 11

【事業チームとしての行動計画】

- ① 動画の編集、多くの人に届ける方法などインスタ勉強会を引きつづき行い、利用きっかけがインスタ 昨年度 5 人→20 人、フォロワー 350 人を目指す。
- ① 健診きっかけの利用促進のため、健診チラシのカードプレゼントを継続。駐車場のお知らせも含めたパネルの作成。チラシ持参目標 5 人。
- ② ひろばデビューデーの月 2 回開催して、デビューデーがひろば利用のきっかけになるようにする。デビューデー新規さん 20 人を目指す。
- ③ 週 2 回のミーティングや振り返りを継続し、スタッフで連携できるようにする。
- ④ 時候のいい時はできるだけ近隣の散歩に出かけ、地域とのつながりを作っていく。(年間 10 回)

【計画達成へのポイント】

- ・インスタのフォロワーを増やして、利用につなげるためにひろばの様子がよくわかるアップの仕方をするとともに、わはは・ひろば坂出らしさが伝わるように工夫する。そのためにも、自分たちのひろばをよさを知り、伝えていけるようにする。
- ・駐車場補助が始まったことの周知をどうするか、スタッフ・利用者さん交えて一緒に考え取り組んでいく。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
まろっ子 事務/運営	6,236,000 円 300,000 円 (フェスティバル)	1人	延べ 14,000 人

【2021 年度の行動目標】

主	安心して楽しく過ごせる居場所づくり	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点 項目	①安心・安全の確保	館の安全対策とスタッフ及び子育て家庭の防災意識を高める。衛生管理を徹底し、常時安全で清潔に保つ。	3, 6, 9, 11
	②利用者の視点にたった運営	子育て家庭や地域の方のニーズに合わせた屋外ひろば&地域交流スペースの活用を考える。	3, 4, 16, 17
	③連携機能の強化	第 6 回子育てフェスティバルや畑作業等を通して、地域の方や協力団体と情報交換し交流を深める。	1, 3, 4, 12, 15
	④民間ならではの柔軟で機敏性のある運営	各 SNS を使って、迅速に子育て家庭のニーズに合わせた情報発信をして認知を広げる。	1, 3, 4, 5, 8

【事業チームとしての行動計画】目標: 1F のみの目標利用者数は 5,500 人とする。

①消防署の協力を得て、地震及び火災避難訓練を各々年 1 回、救急救命講座を年 2 回実施する。

①月 2 回の定期安全点検や毎月のひろば防災デーを通して館の安全管理を強化し防災意識を高める。

①毎日 3 回館内外の備品や遊具の消毒を行い、館内外を常時清潔で安全に保つ。

①3S 活動を月 2 回行い、館内外を安全で使いやすく整備する。

②屋外&交流スペース利用者(特に卒ひろば世代)のニーズに合わせて、新しい遊具や図書、工作材料等備品を揃え環境の充実を図る。

②ひろばや CN と連携して年に 4 回、屋外&交流スペースを利用したイベント等を開催(フェス含む)する。

②前期と後期及び新規イベント開催後はアンケートを実施して、ニーズに合わせた運営に改善していく。

③年 2 回リサイクルデー(秋は子育てフェスと同時開催)を開催する。取り扱い品目を増やし、地域の方にも利用してもらえるようにお手紙配布や掲示などで周知する。(通信やパンフレットも同封) 目標利用者数は各回 150 人

③子育てフェスは「笑顔」をテーマに、協力団体や地域の方々と協力して会場や日時、内容など安全に開催できるよう工夫して 10~11 月に開催する。

③子育てフェスのプログラムのひとつとして、協力団体や地域の方、来場した親子が協働し完成させる作品をつくる。

④新規利用者や地域、企業などにも、まろっ子ひろばの認知度を上げる工夫(SNS、通信、HP、掲示物、ひろばはじめましてセットの配布、声かけなど)をする。Instagram フォロワー数の目標を 750 とする。

【計画達成へのポイント】

・朝礼やスタッフ MTG を活用。館全体で行う業務は、目的やそれぞれの役割や動きを明確にしたうえで情報共有し、担当者が初めて関わる時にも不安なく行動できるように仕組みを確立する。

・半期ごとにふりかえりを行い、課題や達成状況を確認して改善に努める。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
まるっ子ひろば	8,575,000 円	4 人	9,000 人
新型コロナウイルス感染症対策事業費補助金	300,000 円		

【年度の行動目標】

主	赤ちゃん期からの利用促進	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	①情報発信	プレママ・赤ちゃん向けの記事をInstagramに週1回アップ	3
	②利用につながるイベント	毎月テーマを決めて赤ちゃんひろばを行う	4 17
	③サポーターズの活躍の場を作る	サポーターズが活動を通して役立ち間を感じられる機会を設定	11
	④ひろばの認知度を上げる	3.4 か月、1 歳 6 か月検診、パパママ教室チラシ配布 地域に向け回覧板でのひろば周知	11
	⑤スタッフの連携	月に1回ひろば内勉強会を行う	8 17

【事業チームとしての行動計画】0 歳児の登録人数を 250 人にする。(登録時 0 歳児)

①赤ちゃんひろばの様子や、赤ちゃんがひろばで過ごしている様子などを、週1回アップする

①Instagramフォロワー750 人目標

②専門家の情報提供や座談会、先輩ママとの交流会、母のお楽しみイベントなど、毎月の赤ちゃんひろばでテーマを決め行う
(目標:延べ 400 人/年参加)

②ZOOM での情報提供や交流イベント、インスタライブなど、オンラインでのイベントを月1回以上行う

②赤ちゃんひろばで毎月体重計測と写真を撮り、成長が分かるようファイリングすることで、継続利用につなげる

③赤ちゃんひろばやひろばデビューデーなどイベントにサポートとして入ってもらい、赤ちゃん家庭や 1 人目育児家庭などにつなげる(目標:延べ 25 人.12 回/年)

③サポーターズの活動報告をひろば掲示や Instagram にアップし、サポーターズの活動を広く知ってもらえるようにする

④3.4 カ月健診、1 歳 6 ヶ月健診、パパママ教室でそれぞれに合わせたチラシを配布する。3.4 カ月健診では 年 6 回ひろばスタッフが出向く。チラシにカードを付け来館時持参してもらうことで、人数把握する(目標:20 人)

④紹介用のはじめましてセットから利用につながる目標 5 名とする

④地区の回覧板にまるっ子ひろばの通信や様子がわかるチラシを年 2 回回覧する

⑤テキスト読み合わせ、事例検討、研修報告など、スタッフ勉強会を月1回行う(年間 7 回以上参加)

⑤研修・勉強会に年 2 回以上参加する

【計画達成へのポイント】

・半期ごとに振り返りを行い、課題と達成状況を確認する。

・朝礼やまるミーティングの時間を使い、他部署とも情報共有し連携を図る。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
一時預かり	3,107,000 円	2 人	新規 70 人 枠数 600 人

【年度の行動目標】

主	新規登録者数を増やす	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	①広報を行う	SNS を活用する チラシを配布する	17
	②子育て家庭のニーズを満たす	子どもの年齢・成長に沿って保育する	4
	③保護者へのかかわり	保護者の気持ちに寄り添う	16
	④スタッフ連携	朝礼・振り返りで各部署と共有する	17

【事業チームとしての行動計画】

- ①Instagramに、預かり中の様子、できるようになったこと、利用している保護者の声、予約状況、しおりについて掲載。(月 2 回) また、ストーリーズに載せハイライトに入れる。
- ①前年度に引き続き、健診やサークル、はじめましてセットでチラシを配り、認知度を上げる。また、1 歳 6 か月健診に訪問し、直接かかわれるようにする。(スタッフの人数が多い時のみ) (健診やサークルでのチラシを見ての預かり利用者 10 人/年)
- ①ひろばのお知らせの時間に、情報提供として一時預かりの様子など事業説明の時間を設定する。
- ②トイレトレーニングや食事の練習、ワーク(ひらがな・線つなぎ)、屋外あそび(ボールやからだを使った遊び)など、子ども一人一人の成長に合わせた保育をする。
- ②子ども・保護者の状況に応じた保育実施の為、研修に参加し、支援内容を学ぶ (3 回/年)
- ③預かり中の様子、できるようになったこと、どんな遊びに興味を示したかを保護者に伝え、喜びを共有する。
(アンケート結果にて、“様子が分かる“の回答を 8 割以上)
- ③保護者と話している中で、困っていることや変化に気づき、CN につなげられるようにする。
- ④一時スタッフ同士で連携をとれるよう、報連相を行う。朝のミーティングを実施する。
- ④必要に応じて CN、拠点スタッフと連携し、支援内容の共有を振り返り時に行う。

【計画達成へのポイント】

- 前期・後期にアンケートで、Instagram・チラシを見て預けたか聞く。
- 朝礼・振り返りで各部署と当日預かりの子どもについて共有。

令和3年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
坂出コーディ	7,782,000 円	3 人	3,500 人
新型コロナウイルス感染症対策 事業費補助金	300,000 円		
地域で共育	200,000 円		127 人

【年度の行動目標】

主	家族のことを相談できる場所 として認知される。	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重 点 項 目	① 幅広い層が参加できる機会 をつくる	当事者や予備軍など幅広い層が参加しやすい座談会・講座 を開催する。	1.3.4.5.
	② 広報活動を行う。	CN 通信や HP, SNS を活用する。	3.10
	③ 情報提供を行う。	常に最新の情報を提供できるよう情報収集し、随時発信す る。また、適時研修を受け知識を深める。	3.5.10
	④ 専門機関や地域の支援者と 利用者をつなぐ	利用者が様々な専門機関や支援者を知る機会、必要に応じ て個別相談につなげる。	1.3.5.16
	⑤ 地域ネットワークの構築	他機関と顔の見える関係を構築し、地域の課題を共有し、今 後必要な資源の開発につなげていく。	3.17

【事業チームとしての行動計画】

◆目標数値: 半期ごとのアンケートにて、家族のことを相談できること(ダブルケアカフェ、こころの相談室、家計講座)を知ってる割合を 70%以上とする。新規参加率 50%とする。

- ① 介護・こころの健康・家庭経済に関わる座談会・講座を地域の専門機関の協力を得て定期的で開催する。
(ダブルケアカフェ 1 回/月、こころの相談室 5 回/年、家計講座 2 回/年)
月1回休日の CN 相談日を新規に実施、地域子育て支援拠点への訪問を増やすなど相談を受けられる体制づくりをする。
(休日のみ来館者の相談率 50%以上)
- ② HP、SNS に上記 3 講座の記事を毎月掲載。(SNS リーチ数目標 450)
掲載内容、掲載方法の関してのミーティングを 3 回以上実施。
- ③ ひろばにチラシ掲示や各項目の情報ファイルを設置。必要な情報がいつでも得られるようにする。
介護・メンタルヘルス・子育て支援制度に関する情報収集を週 1 回実施し、最新の情報を掲示する。
こころの相談室開催前に、予備軍にむけてのメンタルヘルスに関するミニ講和を年 2 回開催する。
- ④ 関係機関と連携しての個別相談会を実施し、個別のケースに対応していく。また、継続支援、他の専門機関との連携有無などをケース会にて検討を行う。
- ⑤ 新規事業として定期的(4 回/年)にSWW、社会福祉協議会、相談支援事業所と連絡会を実施。現状の課題の共有や情報交換を行い、地域ネットワークづくりに取り組む。

【計画達成へのポイント】

- ・各種 SNS に記載する記事の内容とスケジュールを計画し、実施する。
- ・週1回 CN 全体でのミーティングを行い、業務の進捗状況を計画表と共に共有する。
- ・情報収集の時間を最低 1 時間/週を確保する。